

災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）の概要

参考資料 3
科学技術・学術審議会 測地学分科会地震火山観測研究計画部会（第66回）
R8. 7. 29

第2次計画

災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）
(H31~R05) (H31.1建議)

地震・火山噴火及びこれらによって引き起こされる災害の科学的解明等を通じて災害軽減に貢献

地震・火山現象の解明のための観測研究	地震・火山噴火の予測のための観測研究	地震・火山噴火の災害誘因予測のための観測研究	地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究
--------------------	--------------------	------------------------	----------------------------

研究を推進するための体制の整備

前計画への評価

「基礎研究の継続・深化を前提とした着実な成果創出により、社会の持続的発展への貢献を期待」

<主な評価事項>

- ・今後の災害軽減への見通しをもって研究が実施されたことは高く評価
- ・現象解明や発生予測研究には世界の地震学・火山学をリードする研究成果も含まれる

<主な指摘事項>

- ・分野間連携のさらなる強化と災害科学の深化を意識した基礎研究の一層の推進
- ・防災リテラシー向上研究の目標・射程の明確化、情報発信の強化
- ・火山の研究者不足への対応と研究活性化促進のための地震研究との連携の推進
- ・当該学術コミュニティ全体での地震・火山観測研究に関する人材育成への取組
- ・研究成果の社会への発信力強化、データの利活用促進、他施策や関係機関との連携

外部評価報告書
(R04.7)

災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）R06-10

<計画のポイント>

- ✓ 地震・火山現象の解明と発生予測を目指す観測研究を一層強化・推進するとともに、災害誘因予測や防災リテラシー向上のための研究の充実を図り、災害軽減に積極的貢献
- ✓ 特に、社会の課題解決に向けて着実な成果の創出が期待できる研究項目を「重点研究」として重点的に推進
- ✓ 我が国における災害科学として特に重要と考えられる対象について「総合的研究」を実施、理学、工学、人文学・社会科学の連携強化を通じた「総合知」により成果を創出

①地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 史料・考古・地形・地質データ等の収集と解析・統合
- (2) 低頻度かつ大規模な地震・火山噴火現象の解明
- (3) 地震発生過程の解明とモデル化
- (4) 火山活動・噴火機構の解明とモデル化
- (5) 地震発生及び火山活動を支配する場の解明とモデル化

③地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究

- (1) 地震の災害誘因の事前評価手法の高度化
- (2) 地震の災害誘因の即時予測手法の高度化（重点研究）
- (3) 火山噴火による災害誘因評価手法の高度化
- (4) 地震・火山噴火の災害誘因予測・リスク評価を防災情報につなげる研究

各研究課題が相互に連携・協力

②地震・火山噴火の予測のための研究

- (1) 地震発生の新たな長期予測（重点研究）
- (2) 地震発生確率の時間更新予測
- (3) 火山の噴火発生・活動推移に関する定量的な評価と予測の試行（重点研究）

④地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

- (1) 地震・火山噴火の災害事例による災害発生機構の解明
- (2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究

分野横断

⑤分野横断で取り組む地震・火山噴火に関する総合的研究

各分野が効果的に連携できるような体制を充実・強化し、それぞれの地震・火山現象の理解と、発生予測に関する研究を推進するとともに、それらに基づく災害誘因予測やリスク評価等、災害軽減に資する実践的取組を展開

南海トラフ沿いの
巨大地震

首都直下地震

千島海溝沿いの
巨大地震

内陸で発生する
被害地震

大規模火山噴火

高リスク小規模
火山噴火



⑥観測基盤と研究推進体制の整備

観測研究基盤の
開発・整備

推進体制の整備

関連研究分野との
連携強化

国際共同研究・
国際協力

社会への研究成果の
還元と防災教育

次世代を担う
人材の育成